

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100223		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム愛敬(愛ホーム)		
所在地	上川郡愛別町豊里291番地2		
自己評価作成日	平成26年8月20日	評価結果市町村受理日	平成26年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念である「のびのび、にこにこ、暖かく」「ゆっくりに一緒に楽しく」「長寿喜楽、敬老奉仕」を実践できるよう日々努力しています。 ・自然豊かな環境を活かし、利用者と屋外での生活を楽しむことを、多く取り入れています。 ・地域住民との交流を多く取り入れています。 ・自分が入所したいと思える施設を目標に努力しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0173100223-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年9月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は市内中心部から少し離れた静かな田園地帯にあり、隣接する畑や山林、川や丘陵など、四季折々の自然豊かな環境の中に立地している。平成13年に回廊型の建物により1ユニットでスタートしたが、高齢化に対応する町の要望もあり、新たに1ユニット増設し、現在にいたっている。また近隣の町からの要請により、平成16年に隣町に2ユニット、その2年後の平成18年に新たな町にもう2ユニットの事業所を開設している。また小規模多機能施設と地域の方の憩いの場となる施設も近々開設する準備が進んでおり、グループホームを主体としながら、より地域性の高いニーズに応えるため幅の広い介護事業に取り組んでいる。この事業所の優れた点は、行政と地域が一体となって事業所を支えていることにある。行政は開設地の設定や周囲の河川、地形等の安全性の見守りを始め、事業所のお祭りを町のイベントとして位置づけるなど、あらゆる形態で支援に取り組んでいる。また、近隣の住民からは法人が経営する全事業所分の野菜や果物などの差し入れや事業所の各種行事への参加があり、ボランティア活動など地域住民との交流も密接に行われている。介護の実践についても事業所の理念を具体的にシンプルな表現で示した「介護20ヶ条」を掲げ、利用者本位を根底に据えた認知症介護の実践へ明確な意思をもって取り組んでいる。地域に根ざした生活中心の介護を実践していく当事業所の今後の活動に期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝ミーティング時に唱和している。職員は理念を念頭に置き、ケアに取り組んでいる。	理念はわかり易い表現で記載されており、事務室や玄関などに掲示されている。また具体的事項として「介護20ヶ条」を設定し、常に原点に戻り利用者の立場での介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ホームの納涼祭は町の年間行事とされており、多数の参加がある。ボランティア等の定期訪問もあり、地域の理解を頂いている。	住民との交流は地域を越えて拡がっており、事業所の「納涼祭」は町の行事として認識されている。季節の野菜の差し入れやボランティアの訪問も継続的に行われ、日常的な交流が維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して「役に立つこと」について話し合いを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会、民生委員、行政職員、地域包括センター職員が構成委員となり、2ヶ月に1回開催し利用状況、意見交換等を行い、サービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は行政や家族会、地域住民の参加を得ながら、2ヶ月毎に開催しており、地域住民への認知症の理解の促進方法やケアの取り組みについて意見の交換や提案をし、サービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議の議事録は事業所内に掲示するなど、積極的な活用をしているが、議事録の送付について推進委員、行政、利用者家族、地域町内会など、どこまで必要とすべきか検討することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所状況、行事予定の報告と開催等の協力を得ている。お便りの配布作業、家族との連絡調整、緊急時の協力体制も得られている。	行政との連携は、担当窓口との関係だけに留まらず、各部署から全面的な支援があり、協力体制が築かれている。豪雨などの災害が予想される場合は、町が定期的に巡回を行うなど、緊急体制も整っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が正しく理解し、身体拘束のないケアを行っている。自由に出入り出来るよう配慮している。	介護職員はケアの基本を十分に理解しており、「介護20ヶ条」という具体的な指針により、常に確認や振り返りを行い、身体拘束や抑制と無縁な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時、虐待防止についての話し合いを行い、言葉、態度での虐待がないか、職員間でも対応し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング、外部研修で学ぶ機会を設け、必要な場面で対応できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明させて頂き、理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見を聴取し、受け入れ運営推進会議、家族会、面会時に意見要望をお聞きし、ミーティングなどで話し合い、運営に活かしている。	家族の来所時に意見や要望を聞いているが、その他月に1～2度電話にて報告を行っており、通院時の報告を含め、家族とは多くの接触機会を設けており、意見の収集に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員との面談を行い、意見を聞く機会を設けている。ミーティング時にも意見交換が行われている。	年に2回程度、個人面談を実施している。また会議や申し送り時以外にも必要に応じて、意見や提案を聞く時間を設けており、職員が自由に意見交換できる環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握をし、給与、労働時間等、やりがいについて各自が向上心を持ち働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会を設け、積極的に参加し、報告書を作成し共有に努めている。グループホーム協会に加入し情報交換も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームと常時交流を行い、グループホーム協会に加入し、研修会参加や意見、情報交換をするなかで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時より、じっくりと本人の気持ちを聞くことに努めている。日々の会話の中から気持ちを受け止め、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを聴き、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用される前より、家族よりお話を聞いたり、入所後もご本人、家族との会話を行い支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と会話を持ち、暮らしやすいよう関係を築いている。生活の知恵など学ぶことも多く、共に支え合い生活を楽しめるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を伝えると共に共感した事柄もお伝えし、共に利用者を支えあえるような関係作りに努めている。面会時の会話でも家族の意向をくみ取るよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、ゆっくりと過ぎて頂けるよう努めている。家族の協力も得ながら外出し、知人の来所があるよう努めている。	小さい町の特性を活かし、病院や商店の利用で、昔のままの関係が維持されている。また、友人や知人の訪問もあり、それを自然体で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立のないよう、皆の会話の中に誰でも入れるよう、介護員も会話に入り、共に生活を楽しめるよう、支え合い生活して頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の方からの連絡もあり、行事の参加やお手伝いもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相手の思いを聞きながら、個々に合った生活を送れるよう話し合いを行っている。	日々利用者と寄り添って生活を支援する中で、希望や思いを理解し、職員同士共通認識を持って、本人本位のケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いて、本人や家族から、聞きとりを行い、生活に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や表情など、日々の状態に変化がないか見守りを行い、職員間で引き継ぎを行い共有し状況把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のアセスメント、カンファレンス、基本的に3ヶ月毎の見直し、6ヶ月毎の介護計画の作り直しと共に家族の意見を取り入れている。身体変化等が見られた時は、その都度協議し現状にあった介護計画を作成している。	介護計画は3ヶ月ごとに見直し、6ヶ月に再計画としているが、日々の活動は個別日計表の作成で把握に努めており、現状に即したケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状況を介護日誌に記載し情報を共有することで、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、買い物、付き添い支援、農村公園での作業参加など、利用者の要望に応じた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの毎月の訪問、警察や消防の防犯防火の協力を得ながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望される医療機関への通院同行を行い、状況の把握、報告を行っている。看護師との連絡体制もあり、緊急時の対応も行っている。	町には1箇所の診療所しかないため、ほぼ全員が同じ医療機関となっている。町外の専門医へ受診する場合も情報の交換は綿密に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡が取れる体制にあり、相談を行い、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行い、可能な限り良好な入院生活が送れるよう支援している。病院と連携し、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期の看取りの指針があり、事前に家族と話し合い、医師の指示を受けながら医療支援が可能な範囲、受けられる体制をとっている。	初期の段階で看取りケアについて指針を説明し、本人・家族の意向に沿えるよう取り組んでいる。利用者本人の意向について、日々の支援の中から聴き取り確認し、家族や医療機関に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用法や初期対応の訓練を定期的に受け、また内部学習を行い急変期に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防の協力のもと、避難訓練及び避難時の研修を行っている。家族会・地域住民にも声掛けを行い、参加を頂いている。行政、地域の連携による緊急時の協力体制も出来ている。	消防署の協力により、災害避難訓練を家族や地域住民の参加も得ながら年に2回行っている。また自然災害が予測される場合についても、行政や地域と協力体制が築かれており、安全で安心な生活を送れるよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々接する面から、一人一人の人格を見極め、会話や声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多くもち、本人の思いを表現しやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースになるよう、日々相談しながら、その人らしい生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思決定を尊重しながら、好みのおしゃれをして頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事をし、コミュニケーションをとりながら食事を楽しんでいる。後片付けも職員と一緒にやっている。	利用者が楽しめるように工夫を凝らし、誠意をこめて作っている。食事の準備や片付けなどにも利用者が関わられるように心がけ、楽しい食事になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を行い一人一人に合わせた量、栄養のバランスに配慮しながら、水分摂取にも気を付けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を確認させて頂きながら、毎食後の歯磨きを行っている。食前は緑茶でのうがいを毎回行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、気持ち良くストレスを感じさせない排泄になるよう支援している。	トイレでの排泄を最優先し、時間での誘導と排泄サインを確認しながら、自立排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、散歩を行い水分摂取、食事の調整を行っている。服薬は医師の指示を受け調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体状況や体調を把握し、本人の希望に添えるよう対応している。	週2回以上を基本として、入浴を支援している。体調や心身の状態を勘案しながら、無理強いすることなく、楽しい入浴になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人のペースに合わせ支援している。不眠時には、職員が話し相手となり、安心して気持ちよく入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の理解に努め、服薬前には職員同士での確認を十分に行い、利用者にも確認を行い、飲み込みの見守りもやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や畑仕事等、利用者の自主性を尊重しながら、出来る力を活かした役割、楽しみごとを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康面に配慮しながら、外散歩、日光浴を行い、運動不足にならないよう支援している。天気の良い日はドライブをしたり買い物等の外出支援も行っている。	季節を楽しむドライブの他に、近隣や事業所周辺への散歩を出来る限り多く行い、戸外へ出かける支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人の希望によりホーム管理になっている、		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、手紙のやりとりの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまわくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、温度、湿度などの調整を行い、落ち着いて過ごせるよう配慮している。廊下壁には利用者と共に作成した工作や貼り絵や写真等、季節感を取り入れた作品も掲示してある。	居間と食堂の共同空間は広く、明るいスペースとなっており、居室は回廊の外側に配置され、豊かな自然の四季を楽しめるようになっている。中庭を望む回廊は充分な陽が差し込み、散歩や語らいに心地良さを提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファに座り、テレビを見られたり、会話を楽しまれ過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と利用者で相談され、自由に好みの物や馴染みの物を持ち込んで頂けるようになっている。	各居室には洗面台が備えられており、身だしなみなどを自分で気にかけることができる工夫がなされている。また出窓には小物類や家族の写真が飾られ、落ち着きのある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に対応した声掛けを行うことにより、混乱等生じないよう会話の内容にも注意しながら支援している。		